

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:レーザー科学研究所

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		ベトナムの海外連携オフィスを中心に現地シンポジウム・スクール開催や、学生の交換留学等を実施したこと、また、本学在籍のフィリピン留学生のシンポジウム及びフィリピン大学での本学との交流シンポジウムを開催し、東南アジア地域での研究者・留学生の交流強化に貢献したことが評価できる。
【研究】	SS	平成30年度計画の達成状況が非常に優れている。
		自動車メーカーとして本学初となる本田技術研究所の共同研究部門を発足させた他、本学初の外資系企業であり世界最大級の国際企業である韓国のサムスン電子(日本サムスン研究所)との共同研究部門を次年度設置するための取組を実施したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		所内に産学連携実践の場として「レーザーオープンイノベーションプラットフォーム」を整備し、企業との共同研究立ち上げの議論を本格化させたことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		大阪大学を幹事機関として日米科学技術協定における新たな枠組みに関する政府間協定の締結に努めたこと、ルーマニアELI-NPとの学術交流協定の締結及び常設の連携オフィスを設置するとともに、多数の部局間学術交流協定を締結し、研究・教育に関する連携を推進したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入について、産学連携の基盤となる「レーザーオープンプラットフォーム」などを独自経費で研究所内に整備することで、実績を大きく伸ばし、大学実績に大きく寄与していることが評価できる。</p>
